

令和6年度香川大学卒業式 学長告辞

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた6学部、計1267名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、ご家族や関係者の皆様方にも心からの祝意とともに、学生達の勉学を今日まで支えて頂いたことに対し、感謝の意を表します。香川大学校友会や各学部同窓会の関係者の皆様には、様々な形で彼らの学生生活をご支援頂いたことに、改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの多くは2021年（令和3年）4月に香川大学に入学されました。当時の学内は、新型コロナウイルス感染者の急増による「緊急告知」が発出されるなど緊迫した状況が続き、感染拡大防止のために人同士が接する機会の多い授業や、サークル活動などは大きく制限され、皆さんは不自由な中で大学生活を開始されました。幸いにして、2023年（令和5年）5月に、新型コロナは感染症上の5類に位置付けられたことにより日常生活が戻ってきました。人と人が対面で接することのありがたさを実感する一方で、リモートと対面を組み合わせたハイブリッド型の講義や集会が広く普及するきっかけにもなりました。このような激動の時代に、懸命に勉学に励まれ、今日の日を無事迎えられた皆さんに、敬意を表します。

さて、卒業後、皆さんが活躍される社会とはどのようなものでしょうか。さ

まざまな課題が指摘されていますが、私は、①人口減少、②地球温暖化、③人工知能（A I）の発達、の3つを取り上げたいと思います。このような稀にみる大事件が同時進行しているという点で、私たちは今まさに歴史の転換点に居るといっても過言ではありません。

わが国の人口減少の主な原因である少子化については、次世代よりも現役世代を、集団生活よりも個人生活を優先する傾向が強まったことが背景にあると考えられますが、人口の東京一極集中が進む中、人々の行動様式の変化に合わせた社会改革が十分に進んでいないのも一因だと思われます。地方における人手不足や過疎化の進行は、既に大きな社会問題になっています。次に、地球温暖化については、人類が快適な生活を維持するのに必要とする膨大なエネルギーを、石炭や石油のような化石燃料に依存してきたことで、大気中の温室効果ガスの濃度が増加し、地球の平均気温が上昇して異常気象の発生頻度が高まったと理解されています。そして、「生成 AI」については、人手不足の解消に役立つ一方、私たちから頭脳労働を奪い、やがては人間をも支配するのではないかという懸念を抱かせるほど加速度的に進化し、法整備も追いついていない有り様です。これらの問題はいずれも、私たちが豊かな生活を享受するのと引換えに生じたものと考えられることから、私たち皆が英知を結集して解決に向けて取り組むべきだと思います。

このように激変する社会で求められている人物像ですが、既成概念にとらわ

れず、柔軟に発想することにより、課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動できる人物であることは、多くの識者が指摘するところです。今ほど若者の活躍が期待されている時代はないと思います。それは、若者の持つ新しい視点や、変化に対する適応力や行動力でもって、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会変革の担い手となることが大いに期待されているからです。皆さんは、香川大学で専門分野の学問を究めつつ、勉学以外においてもさまざまな経験を積み、また人間関係を築くことにより、人間的にも大きく成長して卒業を迎えられているに違いありません。どうか自分ができるやり方でもって、社会の期待に応えられる人になってください。

また、社会環境の大きな変化に対応して、いろいろな方向から知恵を出し合い、課題を解決していくためには、Diversity & Inclusion、すなわち「多様性と包摂」の推進がますます重要になってきています。性別・国籍・年齢・障害の有無などの多様性を受け入れ、多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、皆が自分らしく活躍できる共生社会の実現に向けて、いっそうの取組みが急がれます。

さきほど、人口の東京一極集中に触れましたが、わが国が将来にわたって持続的に発展するためには、地方分散型社会を実現することが最良の選択肢であると提言されています。香川大学でも「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をそのビジョンに掲げており、香川県とその

周辺地域の社会と経済の発展への貢献は、本学の重要なミッションのひとつです。卒業後も香川県内あるいはその周辺に留まる方はもちろんのこと、それ以外の地で活躍される方も、どうか香川を第2の故郷（ふるさと）だと思い、将来にわたって繋がりを持ち続け、地域の発展にご協力頂ければと願っています。

皆さんの中には、4月から大学院に進学される方も少なくないと思います。高度化・複雑化した社会では、理系・文系を問わず、大学院で研究を通して専門分野の知識やスキルを深めることがますます重要になってきています。また、いったん就職し、社会人としての経験を積んだ後に自らの職業や生活に関連した具体的な問題意識を持って、働きながら大学院で学ぶことも特別なことではなくなっています。香川大学においては、文理融合型の「創発科学研究科」を始めとして、全部で5つの大学院または専門職大学院の研究科を設置し、さまざまな専門分野のニーズに対応しています。大学院では修士課程あるいは博士前期課程で学んだ後に、博士後期課程に進学して「博士号」の取得を目指す道も開かれています。また、大学院に入学しなくても、短期集中的に特定のテーマについて学ぶ「リカレント専門講座」も用意しています。人生百年時代と言われる長寿社会において、香川大学は同窓生が集う「思い出の場」としてだけでなく、生涯に渡ってさまざまに活用して頂ける「知の拠点」でありたいと願っています。

最後に、卒業生の皆様の前途を祝し、そして卒業生とそのご家族、関係者の

皆様方のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、告辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

令和7年3月24日

国立大学法人香川大学長

上田 夏生